

全校研究「地域の仲間」グループまとめ

I 1年次の取組

交流及び共同学習は、障害のある子供と障害のない子供が共に学ぶ学習機会として、昭和54年盲・聾・養護学校学習指導要領に交流教育の記載がされて以降、学校教育の中で様々な形で展開されてきた。近年では共生社会形成の文脈においても「障害のある子供の自立と社会参加を促進するとともに、社会を構成する様々な人々と共に助け合い支え合って生きていくことを学ぶ機会となり、ひいては共生社会の形成に役立つもの」（文部科学省、2017）、「障害のある子供にとっても、障害のない子供にとっても、経験を深め、社会性を養い、豊かな人間性を育むとともに、お互いを尊重し合う大切さを学ぶ機会」（文部科学省、2019）として推奨されている。

本校小学部では、これまで弘前大学教育学部附属小学校と年数回の交流及び共同学習を実施してきた。そこでは児童同士で楽しそうに関わる姿や肯定的な感情の表出が観察され、両校児童にとって一定の成果が得られていた。しかし、活動内容によっては双方ともに働きかけが少なかったり、関わり合いながら活動することが十分にできなかったりすることもあった。そこで今年度は児童同士が関わり合う学習活動に主眼を置き、活動内容の見直しを図ることにした。交流及び共同学習における児童間の個別の相互作用に着目し、児童の振り返りや活動場面での児童間の相互行為の検証を通して、本校児童が自発的に相手校児童に関わっていくための条件を整理し、今後の交流及び共同学習の活動設計時の視点を得ることを目的とする。

II 1年次の実践

1 実践概要 ※詳細は「実践まとめシート（1年次）」参照

実践	「共に関わり学び合うなかよしタイムの実践 ～個別の相互作用に注目して～」		
学習活動 の概要	・実施は3回		
	実施日・場所	学習活動	教育課程上の位置づけ
	7月14日（木） 附属小学校	造形活動「フラフープつなぎ」	附特 図画工作科 附小 図画工作科
	10月20日（木） 附属特別支援学校	校内オリエンテーリング 造形活動「友情の四つ葉ランプづくり」	附特 生活科、自立活動 附小 特別活動 図画工作
	12月16日（金） 附属小学校	合同クリスマス会 ・リレーゲーム（本校企画） ・ゲーム屋さん（附小企画） ・ツリーの飾り付け	附特 生活科、自立活動 附小 特別活動 図画工作
分析方法	<ul style="list-style-type: none"> ・両校児童の「振り返りシート」の分析 ・学習活動場面の相互作用過程分析 		
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・本校児童が自発的に関わろうとする姿を確認することができた。 ・相互伝達または対話成立状態した状態で一緒に学習できていたことが確認でき、学校外の同世代の子供と関わりあって学ぶ際の示唆を得ることができた。 ・相手校児童の特別支援学校に通う児童への印象や活動時の意識や行動について、肯定的な変容を確認することができた。 ・これらから、次年度の学習活動設計時のポイントや新たに事前学習等で取り入れる内容を得ることができた。 		

2 考察

本校児童の「振り返りシート」の結果からは2回目以降、ほとんどの児童が相手校児童へ積極的な働きかけができたという自己評価を確認することができた。また、2回目の交流及び共同学習時の相互作用過程分析の結果からは、対象児童において相手校児童へ進んで働きかけていたことや相互伝達が成立していた様子が確認できた。さらに、相互伝達及び対話成立状態の水準や相手校児童のアンケート結果から、今年度の交流及び共同学習が両校児童にとって互いに関わり方について学ぶ有意義な機会となっていたことが示唆された。

Ⅲ 2年次の取組

昨年度の成果を受け、『本校児童が相手校児童に対して教えたり主導したりする機会を活動に盛り込むこと』『協力して目標を達成する経験となるような共通課題を設定すること』『共同制作やゲーム性のある活動など、自由度の高い題材を取り上げること』『できるだけ少人数で同比率のグループ構成にすること』の4点を計画に組み込んだ学習活動を相手校教員と一緒に考える。また、事前事後学習で、例えば、本校では基本的なコミュニケーションスキルを、相手校では伝え方や会話をかみ合わせるための方法、受容的行動など、より互いに関わり合えるような内容も取り扱う。継続した活動として共同制作した作品を造形作品展に展示する。

Ⅳ 2年次の実践

1 実践概要 ※詳細は「実践まとめシート（2年次）」参照

実践	「共に関わり学び合うなかよしタイムの実践 ～個別の相互作用に注目して～」		
学習活動 の概要	・実施は4回		
	実施日・場所	学習活動	教育課程上の位置づけ
	6月12日（月） 附属小学校	造形活動 「ボトルキャップオリンピック」	附特 図画工作科 附小 図画工作科
	9月4日（月） 附属特別支援学校	校内オリエンテーリング 造形活動「カラフル金魚ねぷたづくり」	附特 生活科、自立活動 附小 特別活動 図画工作
	11月 実施日未定	社会科「まちたんけん」（予定）」	附特 生活科、自立活動、道徳 附小 社会科
	12月 実施日未定 附属小学校	合同クリスマス会	附特 生活科、自立活動、道徳 附小 特別活動 図画工作
分析方法	<ul style="list-style-type: none"> ・両校児童の「振り返りシート」の分析 ・学習活動場面の相互作用過程分析 		
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・初回から児童間で互いに働きかけ合い、対話しながら活動している様子が確認された。 ・昨年度と比べ、1つのやり取りにかかる会話の回数が増えた。 ・昨年度整理した学習活動の設計のうち、「共同制作やゲーム性のある活動など、自由度の高い題材を取り上げること」「できるだけ少人数で同比率のグループ構成にすること」について、一定の効果が確認された。 		

V まとめ

本実践は年間での取組のため、今回の報告は途中段階ではあるが、2年次の1回目の交流及び共同学習からは、昨年度整理した学習活動の設計時の条件について一定の効果が認められた。また、児童間でコミュニケーションに支援が必要なケースでは、教師が双方に働きかけることで、児童間の持続したやり取りにつながることが確認された。

本校児童を含む知的障害のある児童は、地域の仲間と交流する接点が必ずしも多くはない。その背景要因として、通学する特別支援学校が居住地から離れていることが多いことや少人数指導体制を組んでいること、障害特性によりうまく仲間関係を構築できないこと、習い事などでも受け入れが整備されているところが限られていることなど、物理的・人的要因が大きいことも指摘されている。今回のような交流活動は、生活経験の拡大という観点から、地域を知ることにつながるという意味で、教育的意義は大きかったと考えられる。

今後も多様なニーズや背景をもつ学習者が、同じ教育環境で共に学び合うための方法について、教育課程の編成を含めながら検討していく。

【引用・参考文献】

- ・文部科学省(2017)『交流及び共同学習ガイド』初等中等教育局特別支援教育課.
- ・文部科学省(2019)『交流及び共同学習ガイド』初等中等教育局特別支援教育課.